第2課
10月13日

不一致の原因

暗唱聖句

「主を畏れることは知恵の初め／聖なる方を知ることは分別の初め」（箴言９：10、新共同訳）

「主を恐れることは知恵のもとである、聖なる者を知ることは、悟りである」（箴言９：10、口語訳）

今週の聖句

申命記28：1～14、エレミヤ3：14～18、士師記17：6、列王記上12：1～16、Ⅰコリント1：10～17、使徒言行録20：25～31

安息日午後 10/6

今週のテーマ

旧約聖書の預言者たちは、神の命令に従いなさい、とイスラエルの人々に何度も求めました。不服従と不注意は、背教と不一致をもたらします。神の律法に忠実であることは、罪の当然の結果から人々を守り、多くの異国の民の中にあって彼らを聖別するための手段として意図されていました。神の御旨に従うことは、人々の間に調和を生み出し、ほぼあらゆる方向から彼らを取り囲んでいた異教や不道徳な礼拝習慣の侵入を防ごうとする共同体の意思を強固にするのです。神の意図は、御自分の民が聖(きよ)くあり、周囲の国民に対するあかし人となることでした。

エジプトから救出されたあと、主はモーセを通して言いました。「見よ、わたしがわたしの神、主から命じられたとおり、あなたたちに掟と法を教えたのは、あなたたちがこれから入って行って得る土地でそれを行うためである。あなたたちはそれを忠実に守りなさい。そうすれば、諸国の民にあなたたちの知恵と良識が示され、彼らがこれらすべての掟を聞くとき、『この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である』と言うであろう」(申4：5、6)。

間違いなく、もし神の民が忠実であり続けていたなら、彼らは大いに祝福され、ほかの人たちの祝福となっていたでしょう。しかし、不忠実さは多くの問題をもたらし、不一致は多くの問題の中の一つにすぎませんでした。

日曜日 10/7

「背信の子らよ、立ち帰れ」

イスラエルの民の歴史は、不服従と無秩序、そのあとに続く神への立ち帰りと服従、そしてさらなる不服従と対立が再び続くといった物語であふれています。このパターンが何度も繰り返されています。その都度、神の民は意識的に神の御旨に従い、平和と命とで祝福され、その都度、彼らは逆らって好き勝手に進み、彼らの人生は悲惨になり、戦争や争いであふれました。イスラエルが約束の地に入る前から、神はすでにこのパターンを予告し、彼らの存在に関わるような深刻な結末を回避する解決方法を提供しておられたのです。

問1 **申命記 28：1～14 を読んでください。もしイスラエルの人々が神の御旨に忠実であるなら、どのような祝福が彼らにもたらされるのですか。**

エレミヤ 3：14～18 を読んでください。エレミヤ書において驚くべきことは、反逆、分裂、偶像礼拝にもかかわらず、神がいかに御自分の民に対して愛にあふれ、憐(あわ)れみ深く、寛大であられるかということです。神は、御自分の民が神に立ち帰り、わがままな行動を悔い改めるように、と絶えず彼らを招いておられます。何度も何度も、神は回復と未来への希望を約束なさいました。

「背信の女イスラエルよ、立ち帰れと主は言われる。わたしはお前に怒りの顔を向けない。わたしは慈しみ深く／とこしえに怒り続ける者ではないと主は言われる。ただ、お前の犯した罪を認めよ。お前は、お前の主なる神に背き／どこにでも茂る木があれば、その下で他国の男たちと乱れた行いをし／わたしの声に聞き従わなかったと主は言われる」（エレ 3：12、13）。

エレミヤの言葉は、神の言葉が無視されていた時代に語られました。ヨシヤ王の時代に改革がいくらか始められましたが、ほとんどの人は神に忠実に従う霊的衝動に駆られていませんでした。彼らの罪、偶像礼拝、自己中心な生き方が、霊的、政治的崩壊を引き起こしていたのです。神の御旨を行うことから退けば退くほど、未来の展望は、より恐ろしいものになるのです。しかし、神はエレミヤを通して嘆願されました。神は彼らのためにより良い未来を考えておられ、繁栄、一致、健康を取り戻すことを望まれたのです。しかしそれは、彼らが信仰と、真の信仰に伴うものによって生きる場合にのみ、実現するのでした。

◆ **あなたの人生において、服従と不服従の違いは、どのようなことを意味しましたか。**

月曜日 10/8

神の目に正しい

士師記の物語は、主の御心に従わなかったイスラエルの残念な結果をいろいろ明らかにしています。イスラエルの人々はカナンの地に入って間もなく、彼らの周囲に住むカナン人の偽りの宗教に倣った霊的生活を送り始めました。それはまさに、そうしてはならない、と言われていたことでした！　しかも残念なことに、彼らが直面していた問題は、それだけではありませんでした。

士師記 17：6、21：25 を読んでください。神の民の中における分裂と不一致とは、まさにこのことです。イスラエルの一致は、契約の主に対する彼らの忠実な服従の中に見られるべきであり、その契約は、彼らが神とかつて交わしたものでした。しかし、「自分の目に正しいとすること」を行うことによって、とりわけ、周囲の国々から影響を受けながらそうすることで、彼らは破滅への道を確実にたどっていました。私たちはみな堕落した存在なので、もし自分自身の望みのままにしたり、自分の心の傾向に従うままにしたりするなら、神から歩むように命じられている道から、必ず外れることでしょう。

問2　次の聖句は、士師の時代におけるイスラエルの霊的、社会的状況について、どのようなことを教えていますか。士師記 2：11 ～ 13、3：5 ～ 7

「主はモーセによって、不忠実の結果は何であるかを神の民に示された。神の契約を守ることを拒否することによって、彼らは自分たち自身を神の生命から断ち切り、神の祝福が彼らのところに達することができないようにするのであった。彼らがこうした計画に心を留めた時には、ユダヤの国には豊かな祝福が与えられた。そして、彼らを通じて周囲の国々にも与えられた。しかし、その歴史において、彼らは神を忘れ、神の代表者としての彼らの大いなる特権を見失った時のほうが多かった。彼らは神が彼らに要求された奉仕をすることをせず、同胞に対しては、宗教的指導と清い模範を示すことをしなかったのである。彼らは管理者の責任を負わせられていたぶどう畑の実を、自分たちの用に供しようとした。彼らの貪欲と強欲は、異邦人からさえ軽べつされた。こうしたことを理由にして、異教徒の世界は、神のご品性と神の国の律法とを誤って解釈するに至ったのである」（『希望への光』402、403 ページ、『国と指導者』上巻「序」5 ページ）。

◆　教会としての私たちの行動は、周囲の人たちにどのような影響を及ぼしますか。セブンスデー・アドベンチストの中に、肯定的な印象を受ける何を見ているでしょうか。

火曜日
10/9

国家の分裂

背教の道とその悲惨な結末は、一夜にして生じたのではありませんでした。しかし、誤った選択と決定は何世紀にもわたって積み重なり、最終的に恐ろしい結果を神の民にもたらしました。

問3 **列王記上12：1～16のレハブアム王の物語を読んでください。神の民の間にこのようなひどい分裂を引き起こす原因となったものは、何でしたか。**

「もしレハベアムと未経験な彼の助言者たちが、イスラエルに関する神のみこころを理解したならば、彼らは国家の行政に決定的改革を求める国民の要求を聞き入れたことであろう。しかし、シケムの集会においてやってきた好機に際して、彼らは、原因から結果を推論することをしなかった。こうして、彼らは多くの人々に対する彼らの影響力を永久に弱めてしまった。ソロモンの時代に始まった圧政を継続し、さらにそれを重くするという彼らの決意の表明は、イスラエルに対する神の計画とは正反対のものであった。そして、それは人々に彼らの動機の真実性を疑わせる十分な理由であった。王と彼が選んだ助言者たちは、この愚かで無慈悲な方法で権利を行使することにより、自分たちの地位と権威を誇ったのである」（『希望への光』427、428ページ、『国と指導者』上巻63、64ページ）。

箴言4：1～9、箴言9：10、ヤコブ1：5は、正しい決定を下すために知恵が必要であることについて、述べています。レハブアムと、さらなる強制労働を民に強要するという性急で愚かな決定についての物語は、イスラエル王国の歴史における悲しい出来事です。王は二つの相談役グループに助言を求めましたが、彼の最終決定は、同年齢の経験不足の若者たちの勧告に従うことでした。そしてその決定は、父親ソロモンと祖父ダビデがそれまでの80年間に建てた王国に悲劇的結末をもたらしました。レハブアムが父親よりも厳しいと宣言することで民を怯（おび）えさせるべきだという助言は、愚かな勧告でした。若い相談役たちは、労働を軽くしてほしいという民の要求に同情することは、王が採用すべき指導スタイルではない、と考えました。彼らは、むしろ王が冷酷非情であるというイメージを打ち出すようにすべきだ、と言ったのです。結局、王は自分を、民の忠誠や忠節を得るに値しない弱い者いじめの人間だと見せたのでした。こうして、神の民の間に分裂が生じました。が、それは本来そこに存在すべきものでもなければ、神が御自分の民のために計画されたことでもありませんでした。

水曜日
10/10

コリントでの分派

神の民の不一致の問題は、新約聖書の時代に入っても終わりませんでした。例えば、パウロが書いたコリントの信徒への手紙Ⅰにおける最初の4章は、一致への訴えです。彼はエフェソにいたとき、コリントの教会でさまざまな分裂が起こったと耳にしました。それゆえ、教会の一致と分派を避ける必要に関する長い挨拶で、彼はこの手紙を書き始めています。パウロは、このような展開を憂慮し、不幸な状況を改善するために霊感による勧告を与えようとしたのです。

Ⅰコリント1：10～17を読んでください。クロエの家のだれかから、コリントの兄弟姉妹の間での仲違いと争いについて聞いたパウロは、彼らを心配しました。冒頭の言葉は、その心配の深さを示しています。「さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがい（してはいけない）」（Ⅰコリ1：10）。パウロの解決方法は、彼らがクリスチャンとして、「心を一つにし思いを一つにして、固く結び合（わ）」（同）ねばならないことを思い出させることでした。どんな原因によってこの争いや仲違いが生じたにしても、パウロは、それが収まることを望んでいました。

パウロはコリントの信徒たちに、クリスチャンが召されるのはキリストに従うためであって、人間に（たとえ、どれほどその人に能力や才能があったとしても）従うためではないことを思い出させます。彼らは「党派」によって自分たちを分けていたようですが、使徒は、そのような区別はキリストの御心にかなっていない、と明快に述べました。クリスチャンの一致は、キリストと、十字架における彼の犠牲を中心にしたものだと、彼は主張しています（Ⅰコリ1：13）。

クリスチャンの一致は、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリストの中にだけ見いだされ、ほかのだれの中にも（たとえ、その人がいかに「価値ある」助言者、説教者、指導者であったとしても）見いだされません。そのように、クリスチャンの一致の源は、真理の中にあります。十字架の下では、私たちはみな平等です。私たちのバプテスマは、イエスの中に入ることであり、彼だけが私たちを罪から清めることがおできになります。しかし、私たちは実際的な方法で、キリストにおける一致に向かって努力しなければなりません。

このことから言えるのは、私たちアドベンチストは、信仰や宣教の一致を当然のものと考えることはできないということです。もしキリストの愛と支配権が私たちを彼に結びつけなければ、仲違いや争いは、私たちの教会の一致も損ねうるのです。

◆　パウロがここで対処しているような危険を、どうしたら避けることができるようになるのでしょうか。キリスト以外のだれかに忠誠をささげるということについて、なぜ私たちはいつも注意していなければならないのですか。

木曜日 10/11

「狼(おおかみ)どもが……入り込んで来て」

使徒言行録20：25～31を読んでください。パウロは宣教の働きの中でしばしば反対に遭い、イエス・キリストの福音の純粋さを保つことが難しくなることを知っていました。エフェソの長老たちに別れを告げる際に、彼はエゼキエル33：1～6の見張りのたとえを引用して、彼らも福音を守る責任がある、と仲間の指導者たちに言いました。彼らは集会の良き羊飼いであらねばなりませんでした。

偽教師たちを言いあらわすために「残忍な狼ども」（使徒20：29）という表現をパウロは使っていますが、それは、偽教師が羊の皮を身にまとうだろう（マタ7：15）というイエスの同様の警告を連想させます。このような偽教師たちは、パウロがこの警告を述べてから間もなくしてあらわれ、彼らは、パウロが設立したアジアの教会の信者たちを食い物にしました。エフェソ5：6～14とコロサイ2：8に、小アジアの教会に対するパウロの警告がいくつか見られます。

パウロはテモテへの手紙Ⅱの中でも、エフェソ教会の責任を持っていたテモテに、教会内での惑わしと終わりの時代の不信心に対して警告を与えています。

Ⅱテモテ2：14～19、3：12～17を読んでください。第一に、テモテは聖書を知り、「真理の言葉を正しく伝え」（Ⅱテモ2：15）なければなりません。無用な議論や空論に対する防御手段は、神によって与えられた言葉を正確に理解し、教えることです。聖書の真理は、正しく理解されなければなりません。聖書のどの部分も、聖書の中で示されている全体像と食い違う形で示されないようにし、またイエスに対する信仰を失わせるかもしれない誤った解釈を防ぐためです。見当はずれなことや二次的問題よりも、キリストにおける勝利の人生を送るよう信者を備えさせる神の御言葉の原則が優先されるべきです。

テモテに対するパウロの第二の勧告は、「俗悪な無駄話を避け（る）」（Ⅱテモ2：16）ことです。つまらない空論的な話題は、もしテモテが尊敬すべき忠実な牧師であると思われたいのなら、彼の教えの働きの一部になるべきではありません。こういった種類の会話は、さらなる不信心をもたらすだけで、信者の信仰を向上させません。真理だけが、信者の中に信心深さと調和をもたらします。テモテがこのような誤りを避け、人々にも避けるように促さねばならない理由は、それらが病気のように教会内で広がるからです（同2：17）。結局のところ、神の言葉に忠実であることが、教会の一致を脅かしうる偽りの教え（同3：14～17）に対する防御手段なのです。

◆　私たちは教会として、偽りの教えによって私たちの間に仲違いをもたらしうる同様の人々から、いかに自分たちを守ることができますか。

金曜日 10/12

さらなる研究

参考資料として、『国と指導者』第6章と『患難から栄光へ』第29章を読んでください。

「主は、主に選ばれた僕たちが、一致して調和を保って働くことを望まれる。ある者は、自分たちの賜物と同労者の賜物の差異は大きすぎて、調和して働くことはできないと思うかもしれない。しかし、いろいろな人に接しなければならないこと、また、一人の働き人が伝えた真理を拒絶した人々も、他の働き人が別の方法で示せば、神の真理に対して心を開くこともあるということを覚えて、希望を持って、一致して働かなければならない。彼らの才能は、どんなに異なっていても、皆、同じ霊の支配の下にあることができる。すべての言葉と行為に、親切と愛が表される。そして、働き人各自が、自分に定められた場所を忠実に占めるときに、弟子たちの一致を祈られたキリストの祈りが答えられ、世界は、彼らが、彼の弟子であることを知るのである」(『伝道』上巻132、133ページ)。

話し合いのための質問

❶「自分の目に正しいとすること」を行うという問題は、新しいものではありません。ポストモダニズムは、何か一つの支配的ないし包括的な、知的、道徳的権威が存在するという考えに異議を唱えるものであり、聖書が警告するような道徳的無秩序への道を開く可能性を持っています。クリスチャンとして、教会全体として、私たちはいかにこのような課題に立ち向かえばよいのでしょうか。

❷ 教会の指導者や教会員は、自分たちの教会で争いや派閥が起こらないように、どんなことができますか。このような問題が大きくなり、悪化する前に食い止めることは、いかに重要ですか。コリントの教会員たちが陥ったわなに、私たち教会員はどうしたら陥らないように注意することができるのでしょうか。

❸ 箴言6:16～19の不和に関する聖句の背景について研究してください。あなたの所属教会で不和を防ぐために、何をそこから学べますか。

まとめ **聖書の中に、不一致をもたらした状況を見ます。神の民が忠実に服従して生きていたとき、不一致の危険性は大幅に減少しました。レハブアムの治世の誤った判断とともに、士師の時代のさまざまな誤った判断が、分裂への扉を開きました。新約聖書時代においても、不一致の可能性はありました。神の言葉を正しく理解し、従おうとする努力が、私たちの間における不一致と分派に対する防御策です。**